

2009年8月31日

## 第45回総選挙結果について（談話）

日本高等学校教職員組合(日高教)

書記長 藤田 新一

(1) 8月30日投開票された第45回総選挙は、与党の自民・公明両党が公示前の331議席から191議席に激減する一方で、民主党が単独で過半数を大きく上回る308議席を獲得する結果となりました。国民は、民主党を大きく躍進させることで、自公政治に対する厳しい審判を下しました。

総選挙で野党が単独で過半数を獲得し政権が交代するのは戦後始めてのことであり、自民党は1955年の結党以来初めて第一党の座を失う大惨敗を喫し、自公政権は崩壊に追い込まれました。

国民の怒りの審判による自公政権の崩壊は、国民要求を実現する上でも、日本の政治を前向きにすすめる上でも、歴史的な出来事です。

(2) 自公政権に審判を下した多くの国民は、9月中旬にも発足する新政権の動向を注視しています。当面の焦点は、予算の大幅組み換えをはじめ、民主党が掲げたマニフェストを国民的要求に即して実現させるたたかいに移りました。

同時に、民主党の掲げる政策には、国民要求と乖離する「憲法改悪」「消費税増税」などの矛盾を抱えています。根底にある「大企業いいなり政治」「日米軍事同盟絶対の政治」の根本的転換が重要になっています。

この点で、労働組合をはじめとする国民運動の役割がいっそう重要になっています。国民の利益にそった施策を実現させるとともに、国民の利益に反する施策を阻止するためにも、各界・各分野の運動を強化することが求められています。

(3) 日高教は、新政権に対する対政府要求闘争を強化するとともに、自公政権が推進してきた「構造改革」路線を転換して貧困と格差を是正することに全力をあげる決意です。そして、教育予算を大幅に増額し教育費の無償化にむけて根本的転換をはかること、高校・障害児学校の教職員定数の抜本的改善など、切実な要求の実現にむけて奮闘します。

国民の世論と運動が政治を動かすことをあらためて確信にして、憲法を守り生かす政治の実現を求めて国民的運動を大きく前進・発展させます。当面する諸課題の前進と切実な要求の実現を求めて、新政権の下での秋季年末闘争に全力をあげる決意です。

以上